

平成 24 年度 健康診断結果の概説

I. 一般検査項目について

14) 乳がん検診(図表 J1-8-15)

受診者数: 15,805 人(うち、超音波検査 8,650 人、マンモグラフィ 7,155 人)

有所見率(要精密検査率) : マンモグラフィ 7.6%、超音波検査: 6.3%

マンモグラフィ検査受診者の大多数は 40 歳以上で、35 歳台後半の受診者が最も多い超音波検査より、高年齢層の受診が多くなっています。乳腺が退縮する高年齢層では、マンモグラフィの方が乳がんを発見しやすく、乳腺が成熟した若年層では、超音波検査の方が乳腺と乳がんを区別しやすいからです。

超音波検査所見の内訳(項目別所見内訳・図表 6-8)は、嚢胞の出現率が 6.1%と最も多く、次いで腫瘍、繊維線種、乳腺症 という順です。一方マンモグラフィでは石灰化が最多の 10.7%で、腫瘍は 1.2%です。石灰化や腫瘍の一部にがんが含まれているはずですが、日本人の乳がん罹患率はほぼ 0.1%ですので、これらの所見は必ずしもがんを示すわけではありません。しかしもしそれらの所見があれば念のため精密検査を受けて、がんでないことを確かめることが大切です。

乳がん検診の受診率は先進諸外国に比べてまだまだ低率です。乳がんは女性のがんの中で最も多く、今後も増えると予想されています。早く発見すれば完治が期待できます。気付かないまま手遅れになることのないよう、受診率を高めるための一層の啓発が望まれます。